

素案からの主な変更点

資料 4

	箇所	変更内容	委員意見（『』で示す）もしくは変更理由
1. ビジョンの目的・検討範囲			
1	—	大きな変更点なし。	—
2. 弁天町駅周辺の現況			
2	—	本編作成に合わせタイトルを変更した以外、概要版の内容は変更なし。 本編には、これまでの検討会における現状・課題の資料を中心に記載。	—
3. まちづくりの特徴			
3	—	大きな変更点なし。	—
4. 現状分析			
4	問題の5つ目	「【水みどり】…」の文章を追加。 合わせて、本編P.7「上位計画・関連計画等の位置づけ」に新・大阪市緑の基本計画の内容を記載。	コンセプトで新規に「水・みどりのある～」を追加することとしたため、そこに至る現状分析として追加。
5. 弁天町駅周辺まちづくりコンセプト			
5-1	コンセプト数	コンセプトを3つから6つへ。	『3つにこだわらずにテーマを増やし、もっと詳しく記載した方が良い』
5-2	コンセプト1つ目	「にぎわい拠点づくり」を「世界にひらかれたニシの玄関づくり」へ変更。	『外国人も多く、雑多な賑わいが混在していることが弁天町らしさ。国際的な視点は必要。』 『弁天町エリアは、新しい店舗・施設と、技術・食堂など下町の小さく昭和の空気を残したお店が共存。日本のものと外国のものが交流する場としてのパワーを秘めている。』 以上の意見やニシの玄関口の議論を踏まえ、また港区まちづくりビジョンで区の目標として掲げている「未来と世界にひらくまち」と整合がとれるものとして変更。
5-3	コンセプト2つ目	新たに「居心地よく歩きたくなる空間づくり」を追加。	『港区では大阪ベイタワーのアトリウム広場や木のファニチャー作りなど公共空間を活かすことに注力されている。色々な主体が持つ様々な空間をみんなで使いチャレンジする、というマインドを持っていることがこの地域の強み』 『市岡商業高校跡地やベイエリアから周辺エリアに広がること、その広がる場として広場のような空間を作ることは有効』 『歩きたいと思わせる仕掛けづくりなどウォークアブルの視点が必要』
5-4	コンセプト3つ目	新たに「水・みどりのある暮らし豊かな環境の創出」を追加。	『地域住民の声にあったみどりの観点を入れた方が良い。』 『みどりや水のテーマは重要』
5-5	コンセプト5つ目	新たに「多文化共生によるまちづくり」を追加。	『多文化共生については、別項目とした方が良い』 『日本のものと外国のものが交流する場としてのパワーを秘めている。』
5-6	コンセプト6つ目	「人・文化・産業の掘り起こし」を「人の掘り起こし・育成」に変更。	『「掘り起こし」という言葉づかいは、「現状埋まっているものを見つけ出す」という意味と感じるが、「新たに生み出す」や「既にあるものを育てる」視点も必要ではないか』 『産業も「掘り起こし」と合わない』

	箇所	変更内容	委員意見（『』で示す）もしくは変更理由
5-7	コンセプトまとめ キャッチフレーズ	6つのコンセプトを「場」「環境」「人」に分類し、光の三原色であるRGBで表現。それぞれの色が重なる部分において、コンセプトのまとめとして「場・環境・人の重なりによるにぎわい拠点づくり」と設定。 キャッチフレーズは、「"ニシ"の玄関口 弁天町」から、「場・環境・人が 重なる 輝く 弁天町」へ。	『玄関口として外から様々なものが入ってきて形成された歴史・文化があるという点を強化していければ。』 『過去の街から未来の街に向けてつながるところのちょうど結節点に位置するのが弁天町の特徴。今までの人・文化・産業がどう新しい人・文化・産業と関わっていくのかの視点も重要。にぎわい『いろんなものがやってくるのを受け入れるまち、発信するまち、チャレンジできるまちにしたい』 『過去と未来、内と外の対比があるまちである』 過去と未来、古いものと新しいもの、港として外から来るものと内陸から来るものといったことや、内陸から埋め立て土地を作ってきたこと、民の協力のもと区画整理で土地を嵩上げた歴史、などを「重なる」で表現。それらが融合し、チャレンジし、新たなものを作っていくことを「輝く」と表現。
6. まちづくりの基本的な考え方について			
6-1	土地利用・空間形成の方向性	MAPをより広域化し、駅周辺の「国際拠点ベイエリアとの連携強化」のゾーン及び「地域交流拠点の形成強化」のゾーンの周囲に、新たに「エリアリノベーションの推進」のゾーンをドーナツ状でもうけ、駅周辺のにぎわいが周囲に波及する様をより強く描くように変更。エリアリノベーションの説明を下部に記載。	『にぎわいという観点ではまちを特徴づけるようなものが要素として大きくなっていく。どこにでもあるようなお店を持ってくる方が数字上は良いのであろうが、それを続けてしまうとそのまちならではの良さがなくなってしまう、わざわざ弁天町へ行かなくてもとなってしまう。今地元にある種やなくなってしまうようになっているものを丁寧に拾い、それを核にすべき。』 『市岡商業高校跡地やベイエリアから周辺エリアに広がること、その広がる場として広場のような空間を作ることは有効。古い町並みや町工場をリノベーションして活用し、ターゲットを絞りすぎずにまちづくりを考えていくのが良い』 『歴史や文化といったアセットを活かしつつ、昭和の開発で薄れてしまったイメージを修正していくことができれば良い』
6-2	回遊性の向上	「エリアリノベーションの取組等と連携したウォークアブルな空間形成」、「バリアフリー基本構想の推進に向けた継続的な取組」、「水辺空間との連携強化」を新たに記載。 本編にのみ（P.26）、より広域（港区全域）の回遊性向上方策の図を追加し、東西軸や周辺区との回遊性について示している。	『歩きたいと思わせる仕掛けづくりなどウォークアブルの視点が必要』 『港区内の移動は半分以上が徒歩と自転車。自動車は非常に少ない。しかしそれに対応するインフラが繋がっておらずネットワークの課題あり。大型車がまちなかを走るイメージがあるため、子育て層が住むには安心感が不足。利用実態を踏まえれば歩行者や自転車利用者のための東西軸の強化は重要』 『大阪は江戸時代から東西通りを大切に考え、町屋の玄関は東西の通りにしか面していなかった。大正時代に大阪市区改正という都市改造で南北の通りを通して新しい軸を追加』

	箇所	変更内容	委員意見（『』で示す）もしくは変更理由
7. 取組イメージ			
7-1	(1)世界にひらかれたニシの玄関づくり	①「国際拠点ベイエリアとの連携」に記載していた多文化共生に係る取組を、「(5)多文化共生によるまちづくり」へ移行。 ②「来街者と地域をつなぐ交流機能の強化」の1点目、「オープンスペースの充実」を「将来的なまちづくりニーズの変化に対応できるオープンスペースの充実」に変更。	①コンセプト「多文化共生によるまちづくり」を新たに設定したため。 ②第1回検討会で議論のあった今後30年程度で多くの行政施設の建替えが想定されることを踏まえ、その建替え用地の確保、及び将来的なまちづくりニーズの変化に対応できる用地の確保を想定して記載変更。
7-2	(2)居心地よく歩きたくなる空間づくり	①「公共空間の創出・連携」の取組を新たに設定。 ②「歩行者動線の改善・強化」の取組は、素案の「安全安心の充実」から移行。	①前述のコンセプトの設定(5-3)記載の委員意見を踏まえ記載。 ②新たに設定したコンセプトが歩行者動線に関わるものであるため、こちらへ移行。
7-3	(3)水・みどりのある暮らし豊かな環境の創出	①全ての取組を新たに設定。 ②「国道43号沿道の環境改善の継続」を新たに設定したことから、本編P.17「地域や区の取組」に「港区環境にやさしい交通をすすめるプロジェクト」の取組内容を新たに追加。	①前述のコンセプトの設定(5-4)記載の委員意見や、第1回検討会における『今後はカーボンニュートラルやグリーンインフラ、GX（グリーントランスフォーメーション）も重要』『弁天町駅周辺は水辺に物流施設等が並び、水辺周辺に背を向ける形になっている。水辺が遠く、海遊館まで行かないと海が見えない』といった委員意見などを踏まえ記載。 ②国道43号沿道の環境改善の取組は、「港区環境にやさしい交通をすすめるプロジェクト」として従来より関係部署・事業所等と推進してきた取組であり、本コンセプトの内容に沿う内容であるため記載。
7-4	(4)安全安心の充実	①素案の「歩行者動線の改善・強化」の取組のうち、スマートモビリティを活用した回遊性向上の取組を残し、サブタイトルを「安全安心な地域内移動の確保」に変更。「近隣交通ネットワークの中心である自転車・徒歩に加え」、「シェアモビリティ」を追記。 ②「防災能力の向上」の取組は変更なし。	①『港区内の移動は半分以上が徒歩と自転車。自動車は非常に少ない。しかしそれに対応するインフラがつながっておらずネットワークの課題あり。大型車がまちなかを走るイメージがあるため、子育て層が住むには安心感が不足。利用実態を踏まえれば歩行者や自転車利用者のための東西軸の強化は重要』という委員意見を踏まえ、シェアサイクルなどの手軽な交通手段の推進も併せて取り組むこととし記載。
7-5	(5)多文化共生によるまちづくり	①1点目「地域に根差した多文化共生に寄与する活動の推進」を新たに設定。 ②2点目「国外から訪れる～多文化共生拠点づくり」は、「(1)にぎわい拠点づくり」からこちらへ移行。	①前述のコンセプトの設定(5-5)記載の委員意見を踏まえ記載。区において従来より取り組んでいる「多文化カフェ」や「やさしい日本語の普及」など外国人居住者に向けた活動を推進していくとともに、地域との交流を促進する取組を実施していくことを想定し記載。
7-6	(6)人の掘り起こし・育成	取組内容は変更なし。 ①取組内容の補強のため、本編P.15「地域や区の取組」に現在港区で実施している公民連携の取組を詳細に記載。	—

	箇所	変更内容	委員意見（『』で示す）もしくは変更理由
8. まちづくりのロードマップ			
8	—	概要版には、主なもののみを記載。本編（P.33）に詳細なものを記載。 取組イメージの各取組内容と番号(1-1など)で対応させている。	上記、取組イメージの追記・変更に伴い、修正